



鳥取市の青翔開智高校生グループが縄文・弥生時代の自然由来の釣り具を手作りし、環境に配慮した持続可能な釣りを提案した。地域と連携したワークショップなども開き、昨年度のとっとりSDGsアワードで入賞した。

中心メンバーは芳賀道朗さん(18)と明間凜太郎さん(18) Ⅱいずれも3月で卒業。釣りが趣味だった芳賀さんは根掛かりなどで海や川に放出されるプラスチックや鉛、鉄の釣り具による環境問題を解決する方法を模索。縄文・弥生時代の自然由来の道具を鳥取の素材を使って手作りすることを思いついた。

長野県出身の明間さんも加

環境配慮した釣り提案

■67□

放課後釣り具倶楽部 (鳥取市)

わり、高校1年の冬から同級生や後輩約10人で竿以外の糸、針、重りの制作に取りかかった。糸は古くから植物繊維を取るために栽培されたラムシを使用。針はシカの角を加工。重りは石と粘土で2ヶ月から20ヶ月までの数種類を制作した。



一般を対象に開いた自然由来の釣り具を作るイベント Ⅱ2022年9月24日、県立博物館

糸制作では智頭町の織物職人から助言を受け、シカの角は鳥取環境大の知人などから入手。重りは鳥取市内の陶工の協力を得た。2年前の夏の道具が完成し、鳥取市の賀露海岸や千代川河口、湖山池などで釣りに挑戦した。ハゼやセイゴなどを狙い、ヌマチチブがよく釣れたという。

昨年5月には鳥取市安長の山陰酸素工業鳥取ショールームで一般に向けて展示会を開催。9月には県立博物館で「古代のエコな釣具を作る会」を開き、子どもたちら約20人が参加した。

2人は高校を卒業し、それぞれの道を進んだが、倶楽部は残し、ネットを通じて情報を共有し、さらに釣り具の改良や釣り方の研究に取り組む。